

# COLUMN 1

コラム 1

## JICA連携評価セミナーの改善 合同評価を通じて開発途上国自身による評価をめざしています

**円** 借款事業を効果的かつ効率的に実施するためには、開発途上国が主体的に評価を行うことが不可欠です。当行では、2001年度からJICAと連携して「円借款プロジェクト評価セミナー」を開催し、途上国で円借款等を担当する職員を対象とした研修を行っています。セミナーでは、当行およびJICAの評価体制や評価手法、日本の政策評価の紹介、ケーススタディ等を通じて、参加者の評価能力向上を支援しています。また、04年度から、参加者がそれぞれの担当事業への評価の適用、所属組織への普及等に関するアクションプランを作成しています。当行は、このアクションプランの実現に向けてのフォローアップを行っており、昨年度のタイ、



明石海峡大橋を視察



ディスカッションに熱の入る参加者たち

インドネシアに続き、今年度はインドやスリランカ、ドミニカ共和国との合同評価を実施しています。現在タイでは、レーティングを含むJBICの評価手法の移転が進められており、自国の開発事業の評価への試行的な適用が検討されています。合同評価を通じて、評価制度の改善・調和化への第一歩が始まっています。

01年度から開始したこのセミナーの卒業生は約90名になりました。当行では、このセミナーを開発途上国自身による評価に向けた取組みとして引き続き継続するとともに、修了者の評価活動への参加や情報交換等を通じて、評価の国際的ネットワークづくりもさらに進めたいと考えています。

## 円借款事業評価活動についての広報活動 開発事業評価室からの発信～事業評価を幅広く知ってもらうために～

**当** 行の円借款事業評価の取組みをより多くの方に知っていただくため、「円借款事業評価報告書」やパンフレットを作成し、評価活動やその結果を多方面に紹介しています。

「円借款事業評価報告書2004」（2005年1月発行）については、関係機関のみならず、多くの大学、NGOや図書館、開発援助に興味をもっている方々にも幅広く配布しました。また、事業評価を身近に感じていただけるよう、わかりやすく解説したパンフレット「円借款はど



「農地改革金融支援」  
についてのパンフレット  
を読むフィリピンの援助  
関係者

のように役立っているの？」を作成し、修学旅行で当行を訪れる高校生等に配布しています。愛知万国博覧会でも、各国のパビリオンで評価報告書が配布され、加えてフィリピンのパビリオンでは、テーマ別評価「農地改革への金融支援」（P75参照）について、「国際開発ジャーナル」に掲載された記事がパンフレットとして配布されました。

当行による評価結果のフィードバック活動や、評価セミナー（上記コラム参照）は、国内のメディア（新聞等）でも発信されています。海外では、スリランカにおいて、05年5月にデイリーミラー紙に、当行の評価への取組みや同国の事業の評価結果が紹介されました。今後、評価報告書や各種パンフレットによる情報発信を続けることに加え、映像による評価結果のフィードバック等、新たな試みを進めていく予定です。